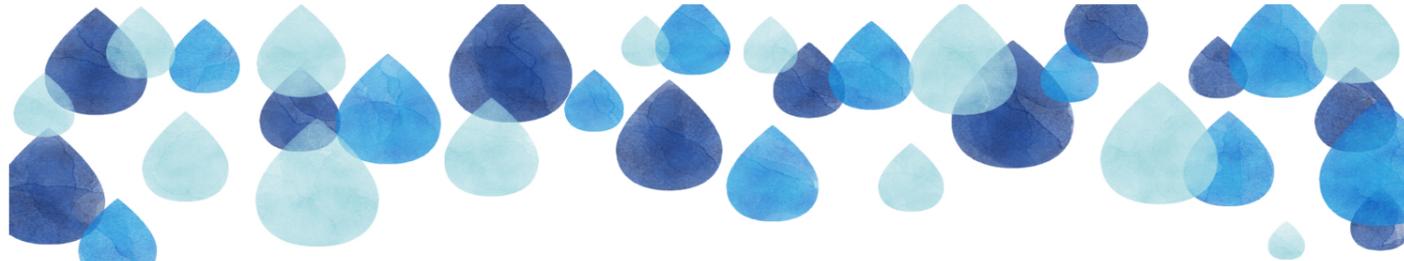


図書案内

2019年 6月号

担当 3-3H 氏 3-7H 佐野

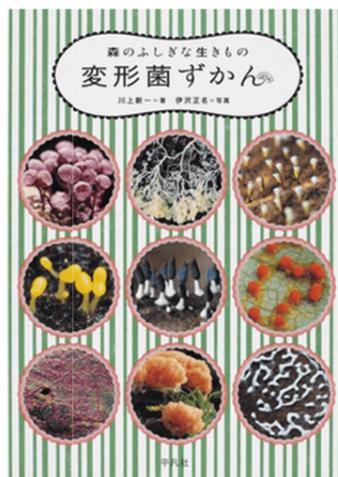


6月です。いよいよ梅雨の季節となりました。雨の日は気分が落ち込みがちになる人も多いのではないのでしょうか。今回は、そんな人にも寄り添ってくれそうな「しっとり」とした本を紹介します。雨でなかなか外出できない日には、本を通して様々な世界に旅立つのも良いかもしれませんよ？ 天気が悪くて橋を渡れない日でも、知のワンダーランドにレッツゴー！

『変形菌ずかん』 川上新一・著

皆さんは「変形菌」と聞いて何を思い浮かべますか？ あまり聞いたことのない言葉だと思います。この本は、そんな「変形菌」についての本です。たくさん色とりどりの写真とともに、生態や特徴が示されていますが、変わった形の菌の姿を見るだけで楽しく、菌に詳しくない人でも楽しめます。また、菌の研究者の紹介などのコラムもあり、読んでいて飽きません。梅雨の時期、身近に感じる菌についてもっと知ってみませんか？(氏)

シダやコケのように胞子をつくるため、植物のようでもあり、アメーバのように動き回るので、動物のようでもある——。しかし、変形菌はそのどちらにも属しません。ふしぎで、魅力的な生きものなのです。



『おおかみこどもの雨と雪』 細田守・著

ごく普通の大学生・花が恋に落ちた相手は「おおかみおとこ」だった。彼との間にできた子供たち、雨と雪も父親と同じように「おおかみこども」であった……。果たして彼らは“人間”として生きるべきなのか、“狼”として生きるべきなのか、二人の成長を通して考えさせられる作品。

原作者・細田守氏は富山県出身。映画では富山の風景も取り入れられているので是非こちらも見てほしい。(佐野)

「でも、おかあさんは、おおかみが好きよ。みんながおおかみを嫌っても、おかあさんだけは、おおかみの味方だから。」



『植物図鑑』 有川浩・著

普通の会社員、さやかが道端で行き倒れていた青年・イツキを「拾う」ところから物語は進み始めます。自炊が苦手なさやかと、やたら植物に詳しく料理が上手なイツキの共同生活がスタートするのですが……。ちよっぴり切なく、でも最後には温かい気持ちになれる作品です。野草を使った料理が多く紹介されているところも、この本の特徴です。全部おいしそう！(氏)

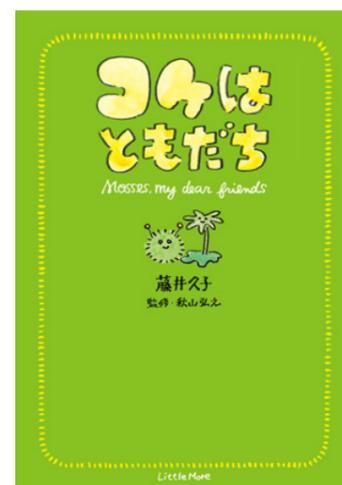
「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか」

『コケはともだち』 藤井久子・著

みなさんは、いたる所に生えているコケに注目したことがあるだろうか？ 「気持ち悪い」と言って避けてしまう人も多いだろうが、よく観察してみるとなかなか面白い植物なのである。この本は、はるか昔から姿かたちのかわっていない彼らが、果たしてどのように生きて、どのような構造をもっているのか、などがわかりやすく解説されている。

巻末には様々なコケの写真もあり図鑑としても楽しめるだろう。(佐野)

乾燥しちゃったら、生きるのを休めばいいんじゃない。



藻を使うことは、未来につながっている！？

藻類は石油に替わるオイルを作るということで、近年、非常に注目を集めています。そのなかでも注目されているのがオーランチオキトリウムというもの。これは、直径 5~15 μ m の非常に微細な単細胞の藻類で、2010年に沖縄の海で発見されました。水中の有機物を取り込んで高濃度の炭化水素オイルを産生するだけでなく、増殖が非常に速く、25℃なら3時間で倍増します。これは他の藻類と比べるととても速く、オイルを作る生産量がものすごく高いのです。しかし、実用にはまだ25年くらい時間がかかると言われています。一番のハードルは、藻を大量に培養すること。そして、藻からオイルを抽出し変換するという工業的なプロセスの部分です。つまり、コストがかかってしまうということです。ですが、これらをふまえてもこの方法でのオイル生産は持続性があり、人類の長期的な展望から考えても実用化されると嬉しいですね。

【出典】30分で石油をつくる！？ ポリカルチャー藻類の可能性 <http://nextwisdom.org/article/1910/>

